練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第17回）「キャリア教育の推進」部会　要点録

開催日時		平成22年10月19日(火)　午後３時02分～午後４時44分
会　　場		練馬区役所本庁舎12階　教育委員会室
出席者	委　員	廣嶋憲一郎、石井友行、世古徳浩、安井実、望月徳生、根本裕美、野田恵威子、髙橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	鈴木裕行　指導主事

１　討議

事務局

前回ご確認いただいたが、教育委員会の方針として、練馬区のアニメ産業と教育を連携させていく事業が商工観光課のほうで進んでいる。それに合わせて本部会でもキャリア教育の視点でアニメ産業との関係を取り入れた事例を１本入れるということで、私が作成することになっている。アニメ産業と教育の連携の検討会でいま進めている内容を参考にして、前回皆さんから頂戴した意見を加えながら作っていきたいと思う。お手元の右側にキャリア教育部会の協議資料とは別に資料５－１「小学校版授業案」を置かせていただいた。アニメ産業やアニメを教育活動に取り入れようと取り組んでいる方々の事業の提案ということで参考資料として出させていただいた。学校教育の立場からするといろいろ課題はあるので、ご意見を頂戴できればと思う。お手元の資料から先に説明する。資料の一番下の分厚く綴じてある１枚目に、知的障害のある児童・生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」というA3判の資料がある。これは国立特別支援教育総合研究所が知的障害のある児童・生徒に関するキャリア教育のあり方を検討し、公開している資料である。望月委員、飯塚委員の特別支援学級におけるキャリア教育の事例にも関係し、またキャリア教育そのものを理解するうえでも参考になるかと思い用意した。あとで望月委員の事例の協議の時間があるので、併せてご覧いただきたいと思う。

そしてあとからお持ちいただいた事例以外に、飯塚委員の特別支援学級の事例「“働く”ってなあに？」と「職場体験」「クリーン運動」「リトルティーチャー」の４本を私のほうで用意した。電子データで頂いた一番新しい事例を出している。その後いろいろ修正された原稿もあるので、最新のデータかをこれで確認してもらい、変わっている場合には電子データを頂きたい。それから髙橋委員から修正された「部活動体験」のデータが届いている。また、「１／２成人式」と望月委員の特別支援学級の事例がお手元にある。本日が最後の部会となるので、特に協議の少なかった部分を中心に話し合い、また全体を振り返って皆さんで確認したいと考えている。では、本日ご用意いただいた望月委員の事例から検討する。

委員

前回のご指導を基に「特別支援学級中学校キャリア教育指導事例」について修正を加えた。「②実施学年」は支援学級全学年を対象にしている。（特別支援学級は学年に関係なく人数で学級数が決められている）は補足である。職業課程の授業は年間 70 時間あり、本校では情報教育分野を年間 18 時間設定している。四角の中に配当時間と内容、留意点を入れ、その下に米

印で補足を入れてある。「③単元のねらい」は「社会自立を目指し、パソコンを使って情報教育全般の充実を図る」として、パソコンの技能だけではないこともつけ加えた。「④本事例とキャリア教育との関連」はいくつか書き分けてみた。「⑤本事例の小中一貫教育で期待される効果」は１期から９期を３分割にして考えた。ここもまたご指導いただけるとありがたい。

３枚目は「パソコン室の様子」ということで写真を入れた。生徒の作業風景には全体指導と個別支援をしながら作業している写真を入れた。それから前回は生徒理解のためのチェックカードを全部入れたが、今回は最初と最後のページを入れた。また、４枚目には作業見本として「おこづかい表」を入れてある。その次のページはＡ・Ｂ・Ｃのランクに分けて問題を設定してある。一番上のＡ級は、文章に書いてあることだけでいろいろ推測しながら作っていくが、Ｂ級になるとある程度マスが用意されていて、必要なことを書き込んでいく。Ｃ級はマスができていてタイトルが入っていて、タイトルなどを自分で大きくできるかどうか、必要なマスに必要な項目を入れられるかどうかを見る。その次のページは「パソコン学習確認テスト　Ｃ級」で、一番下のランクのものである。ディスプレーやマウス、キーボードなどは説明の中でよく使われる言葉なので、言葉とものが一致するかどうかを最低限確認するレベルの問題にしてある。【２】の電源やバックスペース、スペースキー、エンターキーなどもよく使われるキーで、言葉とものが一致しないと指導にならないので、そこを押さえて確認する問題になっている。【３】も同じくCDがどこでどのように使われるかが分からないと話にならないので、このような問題を設定している。次のページ２枚分の問題は一応私が打ち込んでいるがベースになるものがあるので、著作権の確認を取っていただきたい。これは２ページ立てになっているが半分の大きさにして１ページ分にしていただけるとありがたい。もしくは２枚あるうちの１枚だけを紙ベースにしてあとはデータベースでもいいかと思う。最後はワードを使った保護者宛の「学習発表会のお知らせ」の見本と模範解答で１ページをとった。これで計８ページになる。

委員

２ページ目の５行目に「障害」と漢字でかかれているが、⑤の３行目が「障がい」とひらがななので、こだわる方がいらっしゃるのでひらがなにしたほうがいいのではないか。

委員

表中の１期・４期・９期というのは学年のことか。

委員

期は学年である。

委員

それなら「１年生」という形で書かないとわからない。

アドバイザー

例えば１番上はⅠ期（１年～４年）、２段目はⅡ期（５年～７年）、一番下はⅢ期（８年～９年）としてはどうか。それから「期待される効果」の説明文の学年もやはり「期」で示されているので全部書き直さなければ駄目である。

委員

鈴木先生、東京都の表記の仕方では「障害」の「害」はまだ漢字を使っているが、どちらがいいか。

事務局

漢字のままでいいと思う。あと障害に関連して、「障害を持った人」は「障害のある人」でそろえたいと思う。

アドバイザー

「パソコン学習確認テスト」は実際に使っているのか。

委員

期末テストのような感じで使っている。

アドバイザー

例えば“【２】下記の写真はどんな機能なのか[　]に書きましょう。”はどのように書くのか。

委員

写真を見て答えるのは、覚えこませれば結構できる。ただそれを実際の授業にうまく結びつけることができない子もいなくはない。これが「スペースキー」だと覚えて書くような単純作業は出来る。

委員

この写真だとスペースキーではなくて上に写りこんでいる「V」や「B」や「N」を答えるのかなと一瞬思うので、もうちょっと拡大して狭めるか矢印を入れたほうが分かりやすいと思う。

委員

これは著作権が必要なのか。

委員

参考にしている図書があるのでそれとの関係があるかと思う。

事務局

いずれにしろ著作権を取る時には出典が必要になるので、出典を明記していただけるとありがたい。

委員

二つ目の問題の「シャットダウンの説明として、正しいものを選択してください」の問いで

は「③電源を切れる状態にすること」が正解だと思うが、これは「コンピュータの電源を切ること」とした方がわかりやすい。

委員
　それと「[4]下記の各問題で」というこの２枚を半分ずつにするか、１枚に削ってしまってもいいかなと思っている。

委員
　この内容全部を１ページでというのはかなり厳しい。一番うしろの行に「以下略」としたほうが見やすいと思う。また、１枚目の「配当時間」の欄の用語を統一したほうがいい。１～２と３～４は「時限」になっている。「時限」ではなく「時間」のほうがいい。これは事務局で統一すると思うが、例えば「①事例」「②実施学年」は左詰だと思う。他の事例が全部丸をつけずにただの「１」「２」できているから丸数字ではなくただの「１」「２」のほうがいいと思う。
　一番うしろのページの「学習発表会のお知らせ」は主催が「生徒実行委員長」だが、子どもたちの組織がやるのか。小学校のイメージだとこのような学習発表会の文書は校長名で出すことが多い。発信者があえて「実行委員長」の名前で出ているが、これには何か経緯があるのか。

委員
　これは文化発表会などの大きな行事ではなく練習用のビジネス文書としての架空のクラスの発表会だが、一応、生徒に仕事を分担させて運営させていく意図があり、保護者に「自分たちが運営して開きますよ」ともっていきたかったのでこのように生徒名にしている。実際に使うものでなく、あくまで練習用である。

委員
　実際に使用するものなら、例えば「保護者様」と言わないで「保護者の皆さま」など普通の文章にするが、これは生徒の練習用のプリントであるのでこれでいいと思う。ただ、「生徒実行委員長のところに自分の名前を書こうね」といった説明分を入れないと分かってくれないと思う。

アドバイザー
　その辺の表記が要る。８ページにするのならば逆にこのページは要らないのではないか。今後利用できるものであればいいが、練習用であればいらないと思う。

委員
　例えば「パソコンでこういう文章を作りましょう」などとふきだしをどこか片隅に入れる。また、「これがきちんとできたら合格です」のようなふきだしをどこか端に入れておくといい。

アドバイザー
　それで「合格・再受験」と書いてあるのだと思う。

委員
　実際に使用するのであれば、基本的に校長名で出して、さらに日付や名前は右詰である。

委員
　フォントや字の大きさを工夫するなど、パソコンを駆使してこれができれば合格ということだと思う。

委員
　「おこづかい表」をつくる問題は先ほどのＣ級問題とはちょっと質が違うので、半分のサイズにして後ろにまとめてしまってもいいのかなと思う。

委員
　要するに次のページのＡ・Ｂ・Ｃ級がゴールなのか。

委員
　このＡ・Ｂ・Ｃ級もどこか前で説明しないと分からないと思う。だから最初にＣ級は初心者向けとか、Ｂ級は中級、Ａ級は上級のような表示にしたほうがわかりやすい。それで３年間やるんだとどこか前のほうに書いたほうがいい。

委員
　「おこづかい表」の上の「合格・再受験」と一番うしろのページの「合格・再受験」を四角囲みにするなど共通にして、フォントだけでも統一したほうが見やすい。

委員
　３ページの下の「生徒理解のためのチェックカード」は前回も非常に興味を持ったが、22 番から 72 番までが省略されている。下に「中間の内容を省略」と書かれているが、「CD に入っています」と入れた方がいい。また、「おこづかい表」にしろ「学習発表会のお知らせ」にしろ、特別支援学級での学習を知るうえで重要な表なので残しておきたい。

委員
　残すならばどこかを削らなければいけない。

委員
　説明を入れて１ページ編成にできるとよい。

委員
　練習用の資料はどうしてもそのままコピーして使うイメージがあったので原寸にしていたが、学習発表会の練習用資料などは縮小して一つにしてもいいかと思う。

事務局
　それでは「１／２成人式」に入る。

委員
　特に変わったところはない。５番の「本事例の小中一貫教育における期待される効果」がまだできていないので、ここを作文してきちんと仕上げれば完成である。夏休みに見ていただいたところはすべて修正してある。

事務局
　この辺は今までだいぶ議論しているのでイメージは共有されていると思う。資料１の「自分の 10 年間成長の様子をまとめよう！」ワークシートは新しいものか。

委員
　以前提案したのと変わっていない。

委員
　１ページの②の「３学期」という言葉は使えないと思うが。

委員
　「２学期」に直す。

委員
　それからそのページの一番下のほうに「関わり合い」という言葉があるが、表記便覧だと「かかわりあい」は漢字を使わずにひらがなではないか。

委員
　私と同じで③が「単元のねらい」になってしまっている。

委員
　あと２枚目の「本事例の概要」の表中に１、２、３とあり、１が６時間、２が２時間、３が５時間となっている。「１　成長を振り返ろう（６時間)」のように書かないと、下の（１）と（５）と同じ扱いになる。

事務局
　次に飯塚委員の「“働く”ってなあに？」をお願いしたい。本日欠席だが、検討してその結果を後で連絡したいと思う。

委員
　２ページ目の「⑥概要」と１番下に「⑥体験している様子」の「⑥」という番号が重複している。「⑥概要」の⑥は見出しの「６」だと思う。そうすると「⑥体験している様子」の「⑥」

はその真ん中の段の実際に体験している「⑥」と対応する番号だと思うが、そこの確認をとってほしい。キッザニアの宅配便体験の写真は現地での体験の様子だと思うので、それが分かるようにしたほうがいい。そしてそのための方法として、表のスペースをもっと広くとって表の中に入れてしまってはどうか。また、活動内容（時間）のところが、それぞれ何時間ずつやっているのか分かりにくかった。いま計算してみるとどうやら「パンフレットから情報を得る」のが③時間目、「数ある体験の中で、お金をもらう施設とお金を払う施設」が④時間目、そして「どんな仕事を体験するのか、班で相談して決める」が⑤時間目で、⑥⑦⑧が実際に体験する時間だと思う。また、最後⑨が事後学習。その辺を分かりやすく表記できるといい。

アドバイザー

そうすると６時間目から体験に入るのでこの⑥と合うので多分そうだと思う。

委員

10 番の右の配慮事項が空欄になっているので、ここは確認が必要かと思った。後ろの資料ページにはとても関連の深い資料もあるので、その関連がすぐ分かるような表記が必要ではないか。それからあと１ページ増やさないといけない。例えば 11 時間目の「先輩に聞いてみよう」のⅢ期のお兄さんたちに聞く場面などは一貫校として味が出せると思った。例えば聞くための準備や聞く時に使う資料などで１ページ分構成できないだろうか。

事務局

これはわりとストレートに「働く」ということを取り上げているので、キャリア教育との関連も説明しやすいと思う。あとは資料ページが１枚増えれば大丈夫ということで、
飯塚委員に連絡したいと思う。根本委員は新たに「ともだちいっぱい！」と「この町だいすき！」の原稿を用意されたが、大体出来上がっていると思うが、何か修正したところがあるのか。

委員

ちょっとずれていたところを直した程度で、内容的には変えていない。

アドバイザー

項目の数字が①②になっている。どちらかにそろえなければいけない。

事務局

それはこちらでそろえていく。次に髙橋委員から事前に頂いた「部活動体験」の資料をお配りしてあるが何かあるだろうか。

委員

２時間の指導計画の中で収めていくことにした。それと「ぜんぞく」を「持病」にしたり、「上級生が怖い」を「厳しい」にしたり、「合宿」という言葉を削除したり、それから「部活動に対して考えていること」には全体に中黒を入れ、写真を入れる。

資料は単純に※１、※２、※３として指導計画との整合性をとるようにした。そして１時間

共通の体験の活動があり、さらにその先は「任意で活動できる」という書き方に変更した。それから「体験シート」「仮入部カード」の記述の欄が多かったので、どちらも６回分に削った。

委員

分かりやすくなった。表記の問題だが、「５　本事例とキャリア教育との関連」の次は下位のカテゴリなので（１）（２）と括弧でくくる。

アドバイザー

保護者向けの説明資料「６年生の保護者の皆さまへ」という文書を見たら小学校と中学校両方の校長の連名になっているので、どういう体制でいくのかなと思った。一貫校と言っているけれども実質的には併設ではなく校舎が分離している場合は大体校長が２人いるが、併設の場合は１人のところが多い。

委員

「練馬区立〇〇学園校長」でいいのではないか。

委員

では「〇〇小学校」のほうは削除する。

事務局

部活動体験もずっと協議してきたので他になければこれで終わる。お手元には皆さんがお作りになった事例が９揃った。順番を確認しなければいけない。今日は討議資料として一応①から⑨の順番を入れたが、掲載する順番を再確認したいと思う。下の学年から順にいくと、まず「がっこうだいすき」が最初で次に「この町だいすき！」、その次に「１／２成人式」、そして「部活動体験」「クリーン運動」「リトルティーチャー」「職場体験」、そして特別支援学級の小学校と中学校の順番になる。一応それで組んでいきたいと思う。前回アニメ産業とかかわる事例のところでご意見を頂戴した中に、Ⅱ期の中で組んだらいいのではないか、中学生が小学生と協力しながら学習活動に取り組んでみてはという提案があった。具体的なものがなかなか出なくて申し訳ないが、Ⅱ期となると、ちょうどこの「リトルティーチャー」のあたりに事例を差し込む形になるかと思う。事例 10 として最後に載せるとちょっと目立ちすぎる気がする。

アドバイザー

教育課程上はどこに位置づける事例なのか。

事務局

総合的な学習の時間で扱う方がうまくいくと考えている。事例のイメージがちょっとアバウトなので、あとで回収するとお話しした資料をご覧いただきたい。こちらは別のイメージもかなり入っている。右上に資料 5 - 1 と書かれた「小学校版授業案」である。小学校で実際に自分たちでアニメーションの作品を作ってみようというものである。導入部分では練馬区のアニメ産業の状況を学んだり、ゲストティーチャーを呼んで学ぶような場面もあるが、全体として

は作業の時間がかなり入った長いバージョンのものである。実際にはもっと短縮してやらないと、作品作りなど小学生には限界があり、学校の総合的な学習の枠の中でも計画しづらいのではないかということで、現在短いものも検討している。「導入の１、２時間目」と書いてあるアニメ産業を理解する部分と、それから単純なアニメの原形を２時間ぐらい体験的に学ぶという案が出ているので、それに沿っていくことは可能かと思う。単純なアニメとは、例えば鳥が羽ばたく絵ならば羽を上に上げている絵と下に下げている絵を２枚描き、それをコンピュータ上で組み合わせることで動きが生まれる。そしてその動きを大きくしたり小さくしたり、右から動かしたり左から動かしたりというふうに演出を加えるとアニメーションになるというアニメーターの方の提案が一つ出ている。それから中学校ではキャリア教育につなげる意味合いも込めた「講演会プログラム」が、３枚目の資料 5－2 に載っている。これは実際に働いているアニメーターの方の話を直接聞くことを通じてアニメ産業の理解を深めていこうということだが、これをそのままキャリア教育の事例には持ってこられないので、体験活動を組み合わせて作品を作る。Ⅱ期の児童・生徒たちが協力して CM のような簡単な学校の案内を作っていく。デジカメの写真なども加えながら学校紹介のアニメーションを作って一つの作品に仕上げていく。学年を超えて協力できるものを総合的な学習の時間の中で計画できないかというのが前回の意見の中にあった。

委員

学校用のコマーシャルを作ろうという第Ⅱ期の実践事例をこれから考えてくれということなのか。先ほど２枚の絵を動かすことでアニメーションができ、その１枚目の裏を見ると１秒８コマと書かれているとのことだったが。

事務局

この資料の 5－1 にある作品作りは、１秒８コマなどの形で絵をたくさん使って滑らかな絵に近づけていくために作業するというプログラムである。そこまでやるのは学校ではちょっと難しいだろうということで、２枚だけでもアニメーションになるというアイデアはどうか検討してほしい。

委員

愛校心を育てる意味で、学校のコマーシャル作りは視点として面白いと思うので、そこでアニメのよさをうまく生かして子どもたちみんなで作り上げることができれば。僕たちの学校の何をみんなに伝えようか、どんなふうに伝えようかという話し合いからはいろいろな課題意識も出てくるし、面白い実践になるのではないかと思う。

ただアニメの仕組みを実際の授業にどう取り入れるか、やったことがないのでちょっと見えていない部分もある。助監督として美術系の学生や教育学部の学生などと書かれているが、どのぐらい専門の人たちはかかわってくれるのか。

事務局

これはかなり踏み込んだ実践なので、どの学校でもできる形にしていくのは難しい。そんなに協力はしてもらえないと思う。中学校の講演会のようなアニメーターの方のお話を聞く交流

の場面が１回持てるぐらいかと思う。あと技術的なことで１回ご指導いただくぐらいで、この小学校の授業案にあるような細かい協力関係はなかなか難しいと思う。またそういう事例を提案してもできないと思う。先ほどの説明を補足すると、前回のご意見の中のⅡ期に焦点を当てる部分で、もう一つキャリア教育との関連で押さえたほうがいいのは「夢から希望へ」という視点である。その辺りも含めた内容になればいいなと思っている。稿がなくて申し訳ないが、一応キャリア教育の部会の事例として内容的にご了解いただければと思う。

委員

これを見ると頭で分かって理解していく部分と、作品を作っていく部分の二つがあり、作品を作るところはもっと簡略なものでないと実際問題厳しいと思う。これは前任校の北町のコンピュータ部で３～４年前、自分たちでハンドライティングで書いて、スキャナーで取り込んでエアブラシなどで彩色したものをあるフリーのソフトにのせて遊んだ経験がある。そのフリーのソフト名は忘れてしまったが、「この部分とこの部分を動かしなさい」というとパタパタと動くような簡単なソフトがあるので、それをいくつか組み合わせて、１分まではいかなかったが中学生にお話を作らせたことがある。ところが学校紹介となると、確かに壮大な目的でいいがそこまでいくのかなと思う。アニメーターは下絵を描いて塗っていき、少しずつ変えて何枚も何枚も写していったものを仕上げるが、そういう動画ソフトがあるので、それを使って１分ないし２分ぐらいのミニチュア版のようなものを仕上げるぐらいのほうが現実的な気がする。

事務局

まずこの授業プログラムはそのままでは難しいので、先ほどお話ししたようにアニメも簡略化して、２枚の絵でも十分というレベルにする。ただそれでは学校紹介はできないので写真に撮った学校の様子をアニメの映像の流れに組み込んでいくなど、アニメがメインというよりもそういうプレゼンテーションの一部でアニメの体験をしたり、アニメで学んだことを加えてみたりすることが児童・生徒の力でできないかなということを考えている。それでは野田委員から最後にいただいた電子データの「職場体験」に関してどうか。

委員

この間脱字があったのでそれを書き加えただけである。

委員

根本委員の事例を見てちょっと思ったが、例えば児童・生徒が実際に使う資料は「カード」であり、生徒に渡すのではなく教員が参考にしたり使ったりするものを「指導資料」というように統一している。これだけきちんと出てくると、そのように名称を統一したほうがいい。例えば作業するものはワークシートで統一するとか、あるいは外にお願いするものは通知文にしようとか依頼文にしようとか。みんなそれぞればらばらに「資料」としている。部会としてそういった統一をしたほうがいい気がした。それからあくまでも偶数の枚数で制作するということで、今は左綴じになっているが、原稿を作る時に１ページ目と２ページ目が見開きで作っているので、綴じた状態だとまたちょっと構成を変えなければいけない。

事務局

ここは事務局一任で、他の部会等も考えながらこちらで判断したい。みなさんには内容の部分をご準備いただき、ページ構成や表記の部分はこちらで直したいと思う。では全体を通して何か他にお気づきのところをお願いしたい。

委員

鈴木先生が作ってくれた一覧を見ると事例８は「“働く” ってなあに？」で事例７は「職場体験」、最後の事例 9 のタイトルは「仕事に挑戦しよう」となっているがいいのか。内容がパソコン操作だから違う気がする。タイトルのつけ方についても統一したい。

アドバイザー

先ほどのアニメの話だが、小学校３年と９年生のきちっとした形の事例がない。もし小学校バージョンならば、たまたま小学校３年は社会科で区の学習をやるので、区の産業との関係で完全にドッキングさせられる。社会科の中で扱うのは難しいかもしれないが、社会科の発展としての総合という位置づけで、練馬区の産業理解という観点からアニメ産業を取り扱うことは可能である。９年生で位置づけると、先ほどの将来の夢や希望の実現などになる。２月、３月ぐらいの活動でもいいと思うが、これからの自分の将来に向けてある程度考えが出来てきたところで自分の将来をアニメで表してみたいなと思い、真剣さと将来の人生の夢のようなもの両方を絡める方法もある。このような形であればそれがキャリア教育の中にきちっと位置づくのかなと思う。

事務局

中３の２月、３月、特に進路が決定したあとの時期は以外に穴場かもしれない。

アドバイザー

私もその辺でやったら面白くていいものができるのではないかと思う。

事務局

光が丘第四中学校の PTA の講演会にアニメーターの方を呼び、中学校の生徒向けにキャリア教育の視点でお話を聞く企画もあると聞いている。

アドバイザー

クリーン運動や部活動にも９年生はかかわっているが、全体の一部であり、われわれの事例の中に９年生独自の活動はないので、最後の仕上げにはいいと思う。最後に中学３年生がアニメで自分の将来の夢を描く。いいかげんなアニメではなくちょっとびっくりするぐらい素晴らしいアニメをプロの力を借りて作るぐらいの気迫でないとならない。そこに教育的な意味をきちんともってくる。

事務局

廣嶋委員のご提案もあった２月、３月辺りの３年生など私もおもしろいかなと思ったが、中

学校の委員の方はその辺りはどうか。

委員

北町の実践だが、６年ぐらい前の卒業生が１月の推薦で受かってしまい、そのあと何をやるのかといったら、まず家にある古いコンピュータをバラバラにするのだという。そしてこういう部分がよくない、こういう部分が嫌だと部品を秋葉原に行って買ってきては一つひとつ組み上げる。「これはこういう機能がある。これはこういう部分がよくない」と１枚１枚全部写真に撮って CD-ROM に記録して卒業制作にした。そういう卒業制作、卒業論文のような３年間のまとめを北町ではやっていた。集大成としてであれば、考え方としてはたいへんよいと思う。

事務局

私事になるが私がみた生徒の中にも、学級の子を巻き込んで自分たちで映画を作ってしまった中学生がいたので能力的にはできる生徒はいるはずである。

アドバイザー

卒業制作のような位置づけでアニメを使って表現させる。文章にまとめるものはあるが、アニメだとまた違った味が出て子どもが一生懸命になるかもしれない。

委員

うちの学校では３年生の卒業制作で自分史を作らせることがあるが、自分史を作るといっても、自分の子どもの時に触れると校区的にいろいろな家庭があってまずいので、中学校３年間に限定する。３年間でどんなことがあって自分がどう変わったかを１冊の本にする。なかなかうまくはいかないがそういうことをやっていた。ここは９年間の小中一貫なので９年間を振り返ってみる。それ以前の事柄はやはり個々にいろいろな家庭の事情もあるので、小中一貫の９年間が自分にとってどういう９年間だったかを表現する。その手立てとしてアニメーションを使うことはできるかと思う。

アドバイザー

振り返りだけだとちょっと難しいので、振り返りと将来の展望の両方を入れてしまえばいいと思う。

委員

それらのことを考え合わせると、配置は６番と７番の間よりも７番と８番の間に入れたほうがつながる。職業体験でやってきて、その職業体験のその後のような感じで卒業に向けた制作ならばすとんと落ちると思う。

アドバイザー

その活動は当然、特別支援学級の子どもたちもやるから、ひょっとしたら 10 番でもいいかもしれない。

事務局

設置校両方で同じように活動していくことを考えると、最後の事例 10 も落ち着くような感じがしてきた。本日は一通り事例の確認ということで、軌道修正もあったが、後は事務連絡をしてこの会を閉じたいと思う。会の始めに私が用意した原稿は、この段階の電子データまでは頂いているということで、さらに修正される場合にはまたご提出いただきたい。まだ電子データに直した新しいものを送っていただいていない先生方はデータを副校長委員経由で送っていただければ、整理するのに大変ありがたい。あと事務局ページ等は他の部会との連携の中でできたものを委員の皆さんに提出し、最終的にまとめたいと思う。

アドバイザー

おおよその見通しとして冊子になるのは何月ぐらいの予定か。

事務局

年内に一応組み上げて、完成品ではない段階のものを学校にお届けするというお話でした。それから完成品に持っていくにはまた１か月か２か月ぐらいかかるので、多分２月ぐらいになってしまうと思う。

アドバイザー

案の段階でもいいのでとりあえず早めに出さないと教育課程の編成に間に合わない。

事務局

教育課程の第１回説明会が 12 月なので、11 月中にはなんとか学校に出せる状態にしなければいけない。

アドバイザー

委員にはとりあえずできたものを送って頂けるか。それから細かい手直しをし、完成版になるのはおそらく２月から３月ごろになる。ある程度活用できる状態になった段階で結構なので送っていただければと思う。

事務局

では全体をおまとめいただきたいと思う。石井校長委員お願いしたい。

委員

今日は最終回ということで、皆さん本当にありがとうございました。２年間にわたり検討を重ね、形としてまとめることができた。私自身キャリア教育について、廣嶋委員にご指導いただきながら、いろいろなことが少しずつ見えてきたように思う。委員の先生方もこれから各現場に戻ってぜひここで学んだこと、ここで得た成果を広げて頂きたい。桜学園だけではなく、それぞれの現場でも生かしていける部分があるのではと思う。廣嶋委員、本当に２年間ありがとうございました。お世話になりました。